

# 自衛隊基地 次々と

## 地下化

### 敵基地攻撃で住民犠牲

元東京新聞論説委員  
白鳥 龍也さん

安保3文書の主眼は、敵基地攻撃能力を持つことだ。新しい戦略の柱が、沖縄など南西諸島の軍事力強化です。沖縄県民は、沖縄が戦場にされる危機を非常に切実に感じています。政府は今回の軍拡を「抑止力になる」といいます。しかし自衛隊司令部などの地下化を見れば、実際には沖縄の戦場化を前提にしていることは明らかです。敵基地攻撃で結果的に沖縄が戦場になれば、住民避難は自治体によらず、軍隊だけでは地下で生き残ろうという発想です。沖縄戦で沖縄は本土防衛の捨て石とされ、県民は凄惨（せいさん）な地上戦を経験させられました。県民の心には「軍隊は住民を守らない」という教訓が刻まれました。岸田政権が進める軍拡は、米国の戦争に加担する形で沖縄戦と同じ道を繰り返すものです。沖縄がいま訴えているのは、国がやるべきことの順序が逆だということです。戦争を前提にした軍事力強化ではなく、戦争を起させない外交努力こそ必要だと。正論だと、私は思います。6面に続く

### 「日本が戦場」と想定

ふれたぬこ  
脱字あり  
日本を「戦」前へ  
公明党  
八尾・寅

ふれたぬこ  
コロナ死者最悪  
賭博場より保健所を  
大阪府民  
神奈川・宍道

### 全国で自民と癒着 徹底解明を

#### 統一地方選の重大争点

統一協会と自民党などの地方議員、自治体首長との癒着が大問題になっています。これら癒着の解明、統一協会の反社会的活動を地域から一掃し、被害者救済をはかることは、4月の統一地方選の重要なテーマです。統一協会教祖の文鮮明が創立した「世界日報」。昨年10月31日付1面で「共産主導の徹底調査意見書 相次ぎ否決」との見出しの記事が載っています。(写真)

日本共産党の小池晃書記局長は会見（昨年12月5日）で「自民党は統一協会と深くつながっているだけでなく、統一協会との癒着解明、被害者救済を求める声を地方議会でつぶしていることも非常に重大だ」と批判。地方議会、自民党地方議員と統一協会との抜き差しならぬ関係について徹底解明が必要だ。統一地方選でも重要なテーマになった。



「大統領みずからホワイトハウスの南正面玄関に出迎えていただいた。13日（現地時間）の日米首脳会談後、岸田文雄首相は米側の陣営から自衛しました。国民への説明もなく、ハイテン大統領に敵基地攻撃能力の保有と大軍拡を約束した岸田首相。日米首脳が共同で行うことを合意した敵基地攻撃は日本に何をもちたのか。」  
前田孝幸記者

### 軍事・右傾化立ち向かう

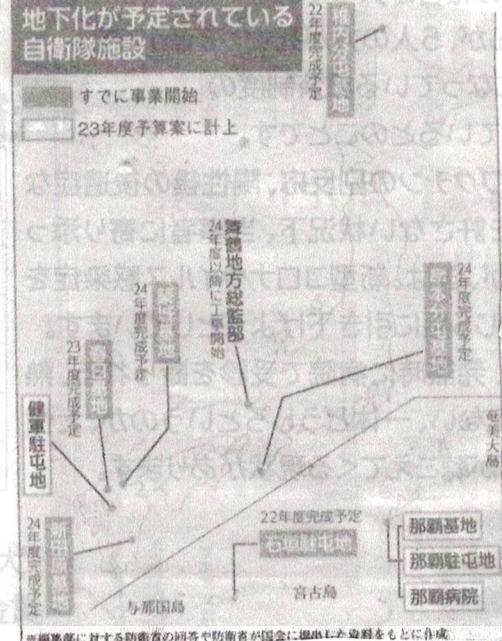
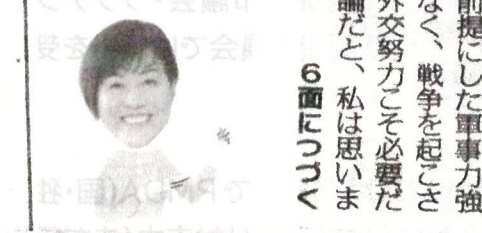
戦前からあらゆる弾圧と抑圧をはね返し、一貫した主義と主張によって信頼と期待を獲得してきた稀有なメディアです。今日のように軍事化・右傾化が目立つなか、敢然としてこの動きに立ちむかう唯一無二の存在とも言える。その背景には、日本の平和と民主主義にあらゆる犠牲を惜しまなかつた先人たちの熱い思いが息づいています。発行に

山口大学名誉教授  
厚 さん

携わる記者・編集者たちにも、間違ひなく先人たちの歩みが生かされているものと確信します。

これからの5年、「赤旗」創刊100周年を迎えるまでに、日本が一気に軍事大国化し、戦争をする国として米中の覇権争いに参入し、戦争の

危機を迎えてしまうのか、それとも平和と民主主義の原点に立ち戻り、平和大国への道を取り戻すのかの、大きな岐路に差し掛かっています。この現実に対し、未来を切り開く道筋を客観的に正確な報道で示すことが「赤旗」の大きな役割であり、責任です。日本に危険な道を歩ませないためにも、これまでの輝かしい歴史をエネルギーに、一層の奮闘を期待します。「赤旗」の平和主義と民主主義の実現を自ずから姿勢や報道が不在であったならば、間違ひなく今日以上の軍事化・右傾化が進んでいたことでしょう。その大きな歯止めの一翼を担ったのは「赤旗」と読者諸氏です。



日刊 月3497円  
日曜版 月 930円

お申し込みは電話です  
090-9987-7009

いま「赤旗」がおもしろい

この紙面は「しんぶん赤旗」の切り抜き記事です。

「赤旗」創刊  
95周年  
2023.2.1  
に寄せて